

令和 6 年度 学校評価書 (計画段階)

福岡県立 玄洋 高等学校

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>社会人基礎力を身に付け、地域の人々と共に未来を創り支える人材を育成する学校</p> <p>授業や学校行事、部活動等での成功体験を積み重ねることで、自己有用感や自己肯定感を高め、学びに向かう力を育み、地域社会の発展に参画し、貢献できる人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己有用感や自己肯定感を持ち、地域社会の貢献に必要な基礎学力やコミュニケーション能力、基本的生活習慣等を身に付けた人材の育成
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「公務員なら玄洋」をキャッチフレーズに、公務員を目指す生徒の指導を充実させ、学校設定科目を開設して正課授業でも公務員試験の対策を行うことができるようにする ・元寇防壁の保全活動や元岡豊年まつり、福岡マラソン等、地域と連携した地域貢献活動を推進し、多くの生徒が主体的に参画できるようにする ・本校のキャリア教育で自分に合った進路を見つけ、選択した進路を実現するため、3つの系(「大学進学・公務員系」「専門学校進学系」「就職系」)を設け、進路に必要な科目を選択履修できるようにする
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力・基本的生活習慣を身に付けている人、または、身に付けたいと強く希望している人 ・部活動や生徒会活動に3年間継続して取り組める人 ・ボランティア活動に主体的に参画する意思を有している(特に行事の企画・運営等に興味を持っている)人

学校運営計画(4月)					
学校運営方針				評価 (総合)	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
<p>生徒の風紀面や授業規律の面で向上が顕著に見られることや、地域貢献活動も活発になったことで、地域から評価を得ている。それにより近隣中学校から微増であるが志願者も増えている。今後さらに周辺の中学校の志願者増が本校活性化の核になることを見込み、中高連携を強化する。 元氣な挨拶の定着や出席率の向上が大きな課題である。職員意識改革及び指導改善を行い、来年度に向けさらに教育内容見直しを行うことにより、出席率向上及び学ぶ喜びのある明るい学校づくりを目指す。</p>	<p>学ぶ喜びを感じ、社会で生きるための基礎学力を持つ生徒の育成</p> <p>時間を守り、挨拶を行い、場に応じた服装や振る舞いのできる生徒</p> <p>地域社会の発展に参画し、貢献しようとする生徒の育成</p> <p>地域との連携強化及び広報活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発達支持的生徒指導の視点からの授業改善に努め、「個別最適な学び」「協動的な学び」の一体的充実を図る。 ・観点別評価の効果的活用をとおして、生徒の主体的に学ぶ態度の向上並びに基礎学力の定着を図る。 ・1人1台端末を効果的に活用する授業のあり方を研究し、個々の生徒の学ぶ意欲を最大限に引き出すよう努める。 ・課題予防的生徒指導の視点からの学級(学年)経営に努め、校内風紀の向上を図る。 ・対話を積極的に取り入れ、個に応じた適切な支援に努め、生徒との信頼関係の構築を図る。 ・部活動の加入率向上を促し、学校全体の生徒の礼節、規律等の生活習慣の向上を図る。 ・地域貢献活動への参画を積極的に行い、生徒の自己肯定感や社会貢献の志を育成する。 ・系列・学年別に整理した進路指導計画を計画的・組織的に実施していくことで、生徒一人一人の希望進路実現を図る。 ・本校生徒の多様な進路先の受験方法等に関する研究を深め、各教科の指導に取り入れることで、生徒全員の希望進路実現を図る。 ・地域の中学校との連携を強化するとともに、佐賀県(唐津地区)への広報活動を充実させ、本校志願倍率の向上を図る。 ・地域と連携した学校行事を新たに企画し、「地域とともにある学校」の実現を推進することで、本校に対する地域からの信頼を高める。 ・本校の手厚いキャリア教育の充実ぶりを、SNS等を用いて中学校や学習塾にアピールし、志願倍率の向上を図る。 			
評価項目	具体的目標	具体的方策		生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の項目等	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の結果等
教務課	授業評価・観点別評価を効果的に活用し、授業規律の向上を図る。	<p>観点別評価について教科内で評価規準を整え、生徒に周知することを通して生徒の主体的に学ぶ意欲や態度の向上及び授業規律の徹底を図る。</p> <p>授業の予鈴時に教室に向かい、チャイムで着席するように促し、全教科で時間を守る指導を徹底する。</p>		授業アンケート	
	スタディサプリを活用した義務教育段階の学び直しとタブレット型端末を活用した学習活動を推進する。	<p>スタディサプリの到達度テストの運動課題を利用した義務教育段階の学び直しを各教科で積極的に取り入れ、基礎学力の向上を図る。</p> <p>1人1台端末を活用した授業の促進を情報課と連携し、使用頻度が授業4回当たり1回となることを目指す。</p>		授業アンケート スタディサプリの取組状況や到達度状況	
	希望の進路実現に向けた基本的生活習慣を身につける。	<p>遅刻カード①②を用いた対話による個別指導と、保護者との連携を通して、正課の遅刻の減少を図る。</p> <p>学期ごとに皆勤生徒の表彰を学年集会等で行い、出席状況の改善を図る。また、各学年の年間の皆勤生徒30人表彰と出席率95%以上を目指す。</p>		授業アンケート 月別の出席統計	
研修・広報課	育成指標に基づき個々の教員の指導力向上を図る。	<p>教員育成指標に基づく研修体系の概要や内容及び新研修システムの運用について教員への周知を図る。</p> <p>基本研修対象者への効果的な校内研修、日々のOJT実施を図る。</p> <p>県教育センターのキャリアアップ講座の積極的な受講を促す。</p>		授業アンケート	
	広報活動を充実することで、「地域に信頼される学校づくり」を図る。	<p>8月の進路相談事業と7月・11月の体験入学などで、本校の魅力や教育活動を中学生および保護者にアピールする。</p> <p>中学校及び学習塾への訪問を行うとともに、本校の教育活動の情報配信を効果的に実施する。</p> <p>ホームページの「玄洋の声」及びインスタグラム、また「玄洋News」を活用して本校の教育活動の様子を積極的に発信する。</p>		体験入学対象アンケート 公開授業参加者アンケート 入試説明会参加者アンケート インスタグラム登録者数 「玄洋News」発行部数	
情報課	ICTの導入・実践を促進し、生徒の学習環境の改善、観点別評価の円滑な運用を目指す。	<p>ICT端末を活用した個別最適な学び・協動的な学びが実現できるよう環境を整える。また、観点別評価を効果的に行う方法を検討し職員へ還元する。</p> <p>希望者を対象としたICT活用研修を頻回開催し、職員アンケートにおいて職員のICTへの習熟度 平均90点以上を達成する。</p> <p>授業アンケートの結果を職員に還元し、研鑽の機会を設けることで、ICT端末の授業での稼働率80%、授業外での活用機会提供率60%を達成する。</p>		ICTに関する職員アンケート 授業アンケート	
	校内機器・ネットワークを整備・修繕し、学習環境や労働環境を改善する。	<p>一斉メール配信システム、classroom、教師生徒アカウント管理、機器登録・管理を円滑にすすめる。</p> <p>導入機器の故障に対し迅速に対応するため、計画的に備品購入・整備をすすめる。</p>			
生徒指導課	生徒の基本的生活習慣の確立を行う。また、リフレッシュタイムをとおして教員と生徒の信頼関係を深める。	<p>遅刻・欠席の家庭との連絡を密にし、毎日の基本的生活習慣の確立を図る。</p> <p>保護者(PTA)と協力し、朝の登校指導や生徒間、生徒教職員間の日々の挨拶を励行する。</p> <p>リフレッシュタイムを通して、生徒が校内に相談できる教員を複数もつことができるようにし、信頼関係の構築やいじめを見逃さない仕組みづくりを行う。</p>		リフレッシュタイムアンケート	
	授業規律の確立と部活動の活性化を図り、自尊感情を醸成できる環境を整える。	<p>授業を受けるに当たり身だしなみを整えさせ、挨拶の発声を徹底する。</p> <p>指導に困難を要する生徒には複数で当たり、その後の教師間による情報の共有を密に行う。</p> <p>部活動の活性化を図るために、新入生部活動体験入部を実施する。新1年生部活動加入率の70%を目指す。</p>		部活動加入率	
	校内組織や外部機関(SC、訪問相談員)との連携を強化し、発達や心に課題を抱える生徒への支援を充実させる。	<p>SCや訪問相談員との連携を強化し、生徒に寄り添った支援を期を逃さず行えるようにする。</p> <p>教育相談委員会での情報共有や、生徒指導課のリフレッシュタイムとの連携を行うことで教育相談機能を充実させ、学校全体で生徒を見守る体制を作る。</p> <p>個別の支援計画を作成し、個々の生徒への合理的配慮につなげる。</p>		SC・訪問相談員の報告書 個別の支援計画作成数 情報交換会の経過報告	
特別支援課	教職員の特別支援に関する知識・理解を深め、個に応じた指導が効果的に行える環境を充実させる。	<p>学年と連携し、支援(個別の支援計画や合理的配慮を含む)が必要な生徒の把握や、職員内での情報共有に努める。</p> <p>生徒情報交換会などの研修を通して、個に応じた指導への知識や理解を深める。</p>		個別の支援計画作成数 学校生活・いじめアンケート	
		SCや訪問相談員と各教員を積極的につなぎ、円滑に情報共有できるようにする。			

保健課	健康で安心・安全に学校生活を送れる環境づくりをする。	身体計測や各種健康診断・健康相談等を通して自身の健康状態を知り、健康の維持増進を図る。 感染症予防対策の啓発や保健教育等を通して、自他の健康・安全・安心につなげる意識の向上を図る。 また、特別支援課やSC等と連携を図り生徒支援を充実させる。 学校保健委員会で情報共有・意見交換を充分に行い、学校医や地域と連携しながら学校保健活動の充実を図る。	健康調査 安全管理点検(校内・通学路) 日本スポーツ振興センター災害共済給付金件数	
	校内外の環境美化意識の向上と実践を図る。 当番制清掃の検証をする。	当番制清掃を充実させ効率の良い清掃活動を図る。また、当番制清掃が3年目となり現状と課題等を検証する。 美化委員会と連携し、掃除用具の在庫管理を随時実施し調整する。 ボランティア清掃(年間12回以上)の充実及び、部活動との連携により環境美化に取り組む。	学校満足度アンケート	
	学校行事が円滑に行われるよう計画・立案を行う。また、教員間の連絡・調整を確実に実施する。	教職員の業務分担を明確化し、円滑に諸行事の準備を進める。 各業務の計画・立案や刊行物等の作成については、教職員間の協力体制の構築を図り、見直しをもって実施する。 各種案内を教職員に周知させる手立てとして、配布や掲示に加えてICTの活用による情報発信を行う。	学校満足度アンケート	
庶務課	学校評議委員会やPTA、同窓会等との連携を深め、協働して行う学校行事等の計画・立案・調整を行う。	学校評議委員会等の会議における準備を円滑に行う。 第3学年の担当者との連携を密にし、同窓会入会式等の行事を円滑に進める。 PTAとの連絡を密に行い、円滑なPTA活動の推進を支える。	学校評議委員会、学校関係者評価委員会 アンケート	
	基礎学力の定着とともに自身の適性や能力を知り、目標に向け取り組めるよう支援する。	長期休業中等の時間を活用して、講座等を実施し、学力の向上及び学習習慣の定着を目指す。 外部模擬試験を実施し、基礎学力の定着と進路実現につなげる。 進学説明会やアカデミックインターンシップを通して、進路実現への動機づけをはかる。	進路希望調査	
	保護者・教員間の連携を図り、学力・自己表現力を身につけさせる指導を行い、進路実現をはかる。	九産大・福岡大・西南学院大に合計10名以上の合格を目標に指導する。 保護者との連携を深め、各人の適性や資質・能力に合致した進学の選択を行うように支援する。 多様な入試制度に対応するため、志望理由書や小論文の作成の指導や面接指導を効果的に行う。	進学保護者会アンケート	
就職課	主体的に広く深く学び、自己の能力や適性に合致した確かな職業選択を行う力を育成する。	インターンシップを通して業界、企業への理解を深め、自分の適性を理解し進路選択の意識付けを行う。 外部機関との連携を積極的に進め就職に必要な基礎力を身につけさせる。 2年次の3学期から面談を行うことで、生徒理解に取り組み、適切な職業選択ができるように促す。	就職ガイダンスアンケート口 就職希望者面談 インターンシップ報告書	
	進路に関する情報収集能力を育成しながら課題解決に具体的に取り組ませ、進路実現を図る。	合同企業説明会や応募前職場前見学を通して8月末までに応募先を決定し、1日でも早く受験準備を始める。 面接練習等を学年と協力して計画的に行う。また、企業訪問を職員が協力して行うことで、事業所との信頼関係を充実させる。 進路セミナー等のガイダンスを充実させ、2学期までに学校推薦による就職を志望する生徒に100%の合格を達成できるように支援する。	ジョブドラフトFESアンケート 就職内定者アンケート 就職内定率	
	3年間を見通した公務員受験指導を外部専門機関と連携してすすめる。	公務員専門学校と連携を行い、ガイダンスや講座などを計画的に行う。 警察や自衛隊等の外部機関と連携を行い、面接指導の充実を図る。	公務員合格者数	
第1学年	高校生活における基本的な生活習慣・学習習慣の確立を図る。	チャイム席や各集会の際に「時を守る」ことを徹底する。出席率97%以上を目指す。校則や通学マナーの厳守を徹底させるとともに、多くのボランティアへの参加を促す。 生徒の情報を密に交換して生徒の理解を深め、教師が挨拶など率先垂範を心掛け、生徒の規範意識を向上させる指導を行う。 Chromebook等の効果的な活用や観点別評価を通して、生徒の主体的に学習に取り組む態度を向上させ、学力の向上を図る。	授業アンケート 学校生活・いじめアンケート 学校満足度アンケート	
	社会及び自己の未来を見据えて、自分に適した進路を選択する能力を育成する。	アカデミックインターンシップや地域貢献活動等の体験的な活動を通して、生徒の自己肯定感を高め、進路意識の向上を図る。 進路指導部と連携した総探の時間を活用し、各系統ごとの情報提供と分析的確に行い、生徒の進路目標を確定させる。		
第2学年	所属意識を高め、時間を守り、挨拶ができる生徒の育成を図る。	生徒とのコミュニケーションを十分にとりながら生徒理解を図り、自主的に挨拶ができる生徒の育成に努める。 クラスや学年の中での自身の役割を理解させ、その役割を果たす生徒の育成に努める。 日常生活や行事等において、生徒が自身でスケジュール感を持ち、次に何をすべきか考えさせて行動させる。	授業アンケート 学校生活・いじめアンケート 学校満足度アンケート	
	進路探求に努め、自身に適した進路を決定する。	授業を大事にさせ、学びの意欲を高め、社会で生き抜く知識を身につけさせる。 ボランティア活動や進路的行事で自身の適性を見極めさせ、適切な進路選択につなげる。 校外活動などにおいて、社会に目を向けさせ、なりたい職業の選択肢が増えるよう働きかける。		
	自分に適した進路に必要な資質を身につけさせ、進路実現を図る。	個別指導や個人面談を適宜行い、適切に進路を選択できるよう働きかける。 ボランティア活動への参加を促し、社会貢献活動を通して自己有用感を高める。 進路指導部と連携し、各系統に応じた情報提供を生徒・保護者に行う。	授業アンケート 学校生活・いじめアンケート 学校満足度アンケート	
第3学年	自尊感情を高め、各々の個性を生かし、学校全体を牽引できる集団を育成する。	学校行事を通して、生徒が個々の個性を生かし、主体的に活躍できる場を設定する。 学校全体を牽引するリーダーシップ、フォロワーシップ、ひいては人間力を向上させる。 様々な場面で目標設定や振り返りを行わせ、自己肯定感を高めさせる。		